

平成20年2月4日

平成19年度後期助成先の決定について

1. 平成19年度事業の一環として、国際交流助成（後期）及び論文表彰の募集を行ったところ、国際交流助成13件、論文表彰14件の申請がありました。

2. 学識経験者からなる選考委員の審査を経て、平成20年2月1日の理事会において助成対象を次の通り決定しました。

（1）国際交流助成（後期）

- ・研究留学（1件 1,000千円）3件 3,000千円（応募件数 7件）
- ・学会出席（1件 300千円）3件 800千円（応募件数 5件）
- ・研究者招聘（1件 1,000千円）1件 1,000千円（応募件数 1件）

（2）論文表彰（副賞 500千円） 3件 1,500千円（応募件数 14件）

3. 国際交流助成事業（後期）

（1）研究留学（応募件数：7件）

1）麻 植 浩 樹（大阪市立大学大学院）

留 学 先：米国 Cleveland Clinic

助成額・期間：1,000千円（平成20.6.1～22.5.31 730日間）

研究テーマ：経胸壁3次元心エコー図法、経食道3次元心エコー図法を用いた僧帽弁、大動脈弁、三尖弁の3次元構造の解析と心機能評価、およびこれらの弁膜症病態解析、弁膜症手術における応用

2）片 岡 有（国立循環器病センター）

留 学 先：米国 Cleveland Clinic

助成額・期間：1,000千円（平成20.6.1～22.5.31 730日間）

研究テーマ：糖代謝改善薬による抗動脈硬化作用発現の機序に関する大規模臨床研究：Virtual Histology 冠動脈内超音波検査を用いたプラークの量的・質的变化

3) 村井久純(金沢大学)

留学先: カナダ Faculty of Medicine, University of Toronto

助成額・期間: 1,000千円(平成20.7.1~22.6.30 730日間)

研究テーマ: 心不全における運動負荷時の単一筋交感神経活動への影響とその意義に関する検討

(2) 国際会議出席(応募件数: 5件)

1) 小賀徹(京都大学)

助成額・期間: 200千円(平成20.5.16~5.21 6日間)

学会名: 2008年米国胸部学会国際会議

開催地: トロント カナダ

2) 櫛引俊宏(大阪大学大学院)

助成額・期間: 300千円(平成20.4.7~4.12 6日間)

学会名: Photonics Europe 2008

開催地: Strasbourg France

3) 水野樹(帝京大学)

助成額・期間: 300千円(平成20.5.31~6.3 4日間)

学会名: Annual 2008 Meeting of Society of European Anesthesiology

開催地: コペンハーゲン デンマーク

(3) 研究者招聘(応募件数: 1件)

1) Peter J. Hunter(オークランド大学教授)

申請者: 堀正二(大阪大学大学院)

助成額: 1,000千円(平成20.5.7~5.11 5日間)

来日目的: 第47回日本生体医工学会大会において特別講演等

2. 論文等表彰事業(応募件数: 14件)

1) 守本祐司(防衛医科大学校)

副賞: 500千円

対象論文: Effectiveness of Narrow-Band Ultraviolet-B Phototherapy for Prevention of Intimal Hyperplasia in a Rat Carotid Balloon Injury Model

発表した機関誌等: Lasers in Surgery and Medicine Vol.39, pp659-666, 2007

2) 永井良三(東京大学)

副賞: 500千円

対象論文: In vivo imaging revealed local cell dynamics in obese adipose tissue inflammation

発表した機関誌等: Journal of Clinical Investigation

3) 蜂谷仁(東京医科歯科大学)

副賞: 500千円

対象論文: Clinical Implications of Reconnection between the Left Atrium and Isolated Pulmonary Veins Provoked by Adenosine Triphosphate after Extensive Encircling Pulmonary Vein Isolation

発表した機関誌等: Journal of Cardiovascular Electrophysiology
Vol.18, pp392-398, April 2007